

## これまでの大阪府依存症関連機関連携会議・ ギャンブル等依存症地域支援体制推進部会等における 「ギャンブル等依存症に関する啓発」に関する意見等

※（ ）は、意見等のあった会議・部会の年度と回

### 啓発が必要な背景・課題

#### （一般府民への啓発）

- ギャンブル等依存症問題啓発週間があることの周知がまだまだ足りない。一般の人達が他人事ではなく、自分事として捉えられるよう、国、府、市がそれぞれ広く啓発するべき。(R3 連携会議①)
- ギャンブル等依存症の考え方について「本人の責任である」と思う人の割合が72.6%という結果は、ギャンブル等依存症の理解が一般的な人にとって、まだまだ浸透していないということなので、社会全体で変えていくべき問題である。(R3 部会①)

#### （悩んでいる人への啓発）

- 「恥」という感覚から、本人・家族からつながってくるケースは少ない。友人や知人が見るに見かねてという相談が多い印象がある。(H30 部会①)
- 借金問題を相談に来るが、病に関する理解ができていない。借金問題から「これは依存症かもしれない」と思った家族が相談に来る。他の依存症より、病気と気づくまでの期間が長い。(H30 部会①)
- つながるまで5年というとても長い期間がかかるのは不幸だと思うので、早く病気について知って、自助グループにつながる手立て等が必要。(R3 部会①)
- 相談機関に早めにつながるための啓発は非常に難しい。広報に出したり、関係機関にも相談についての情報を提供したりしているが、相談につながるまで、かなり年数がかかる点は課題。(R3 部会①)

### 各機関・団体等での取組み

- 依存症の基礎知識などを中心の市民講座を開催。相談になかなか来ることができない方が、つながってくれるような接点としたい。(R1 連携会議①)
- 健康まつりなどの機会を利用して依存症についての正しい知識普及と、相談窓口の周知を行っている。(R1 連携会議①)
- ギャンブル等依存症問題啓発週間に初めて電話相談を行ったところ、全国から電話があり、テレビも2社取材が来た。啓発週間には大阪府全体で大々的にマスコミも活用して取り組んでほしい。(R1 連携会議②)
- Twitter ドラマ、YouTube 番組、啓発冊子等による啓発事業を行っている。(R2 連携会議②)
- (コロナ禍により)啓発については、ギャンブル等依存症問題啓発週間に実施しているパネル展示や街頭啓発は行えず、ホームページに啓発資料を掲載した。(R2 連携会議①)

- （新型コロナの感染拡大による）緊急事態宣言で啓発週間の際にパネル展示ができなかったため、Facebook や Twitter を活用。若者や SNS を利用する層に見てもらえる等のメリットがあった反面、Twitter は何回もつぶやかないと効果が薄いが、1 回しか投稿できていないのが課題。（R3 部会①）
- 自助グループでは、引きつける魅力に終始している。（R3 部会①）

### 啓発に関する意見等

- 普及啓発についてなぜ高校生なのか。アルコールや薬物は中学生から教育しており、ギャンブル等についても小・中学生への啓発が必要ではないか。（R1 関係者会議①）
- 啓発物については、完成する前に当事者等の意見を聞いて作成すべき。（R1 関係者会議①）
- 啓発週間等に地下鉄などの主要駅の柱や大きな画面で流れている情報（デジタルサイネージ）を活用できないか。「今、啓発週間ですよ」ということをアピールしたら、全然関係ない人の目にも留まって、「啓発週間があるのか」と広まりやすいのではないか。（R3 連携会議①）
- 普及啓発の講師に民間団体からの講師を入れるべき。（R3 部会①）